

年 月 日

日付は申請受付日ですので、事前相談の段階では空欄としてください。

一般社団法人 20年先を見据えた日本の高断熱住宅研究会  
理事長 坂本 雄三 殿

### HEAT20 住宅水準 「住宅システム認証」 申請書

申請者 会社名 **株式会社 ○○工務店**  
代表者役職、氏名 **代表取締役 ○○ ○○**  
住所 **東京都千代田区神田○-○**

HEAT20 会員情報	会員区分	<input checked="" type="radio"/> 会員	<input type="radio"/> 非会員
	会員種別	<b>B-3</b> 会員名： <b>株式会社○○工務店</b>	

標記の認証を受けたいので、関係書類を添えて申請いたします。  
この申請書及び付属資料の記載事項は、事実と相違ありません。

#### 記

該当箇所の○にチェック (☑)を入れて下さい。

システムの全体像を示すための**短計図、断熱部位の断面構成がわかる図面(平断面、縦断面)を必ず添付**してください。

暖冷房・換気システム等については、補足資料として適宜添付してください。

「計算地点選定リスト」による検討結果を添付してください。

ルート1は、「外皮性能地域補正ツール」の計算結果を転記するとともに計算結果の出力も提出してください。

ルート2は、ホームズ君 省エネ診断エキスパートの「HEAT20 住宅シナリオ計算書」の計算結果を転記するとともに「HEAT20 住宅シナリオ計算書」も提出してください。  
※AE-Sim/Heat による場合は、事務局までお問い合わせください。

1 住宅システムの名称	<b>○○工務店 プレミアム断熱住宅システム</b>				
2 住宅種別	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 既存改修				
3 住宅システムの概要と特徴	<p>1) 外皮の熱性能 G3水準の高断熱住宅である。断熱材は・・・が主要材料なので、気密性・防露性にも優れている。窓は3層ガラス・・・サッシを使用する。日射遮蔽は庇とルーバーで行う。通風にも配慮して、開口部と廊下の位置を定めている。</p> <p>2) 暖冷房・換気設備の特徴 暖冷房は家庭用エアコンを熱源とする全館空調システム(・・・システム)である。全熱交換換気と空気清浄機もシステムに内包されているので、省エネで且つ健康的である。</p>				
4 認証を申請する地域(省エネ基準の地域区分、県名、市区町村名を適宜使用して、もれがないように申請する)	<b>東京都、神奈川県川崎市、神奈川県横浜市の6・7地域</b>				
5 構造の種類	<input checked="" type="radio"/> 木造軸組工法 <input type="radio"/> 枠組壁工法 <input type="radio"/> その他 ( )				
6 断熱工法	・断熱部位の組合せ(壁以外) <input checked="" type="radio"/> 屋根-床 <input type="radio"/> 天井-床 <input type="radio"/> 屋根-基礎 <input type="radio"/> 天井-基礎 ・断熱パネル採用の有無 <input type="radio"/> 採用している <input checked="" type="radio"/> 採用していない				
7 認証を申請する水準(住宅シナリオ)	<input type="radio"/> G1 <input type="radio"/> G2 <input checked="" type="radio"/> G3				
8 評価計算の方法と指標の計算結果	使用したルート		<input type="radio"/> ルート1 <input checked="" type="radio"/> ルート2 (G1の認証には使えない)		
	気象データ	地点NO.	361	地点名	八王子
		省エネ地域区分	6地域		
	住宅シナリオ	暖房期最低室温 (OT)	住宅シナリオ・NEB	概ね15℃を下回らない	
		最低OTの計算値		13.2℃	
		住宅シナリオ・EB	約40%削減		
	暖房負荷削減率	平成28年基準暖房負荷 <sup>※1</sup> (ルート2のみ)	10.52 GJ/年		
		申請住宅システムの暖房負荷 <sup>※2</sup>	4.21 GJ/年		
		暖房負荷削減率の計算値	60.0 %		
暖房モードについて：※1では該当地域に応じた暖房モードが設定されている。※2では、ルート1の場合は※1と同じモードだが、ルート2ではどの地域でも全館連続暖房モードが設定されている。					

新築住宅の場合は「新築」、既存住宅(全体スケルトン断熱改修)の場合は「既存改修」を選

外壁・屋根・天井・床の熱貫流率計算において木部等の熱橋面積比率を特定するために必要です。必ず記載してください。

気象データの無い市町村を申請地域とする際には、資料「申請地域と評価に用いる気象データ地点の選び方」に基づいて検討してください。

注：気象データ地点を申請する地域としたり、対象外とすることはできません。都道府県、市区町村単位もしくは省エネ基準の地域区分単位で記載してください。

HEAT20設計ガイドブック2021のp026表1を参照して記入してください。

HEAT20設計ガイドブック2021のp030表2を参照して記入してください。

注：「ルート1」と「ルート2」では、負荷削減率の意味が異なりますのでご注意ください。

◆担当者の連絡先等

担当者氏名	○○ ○○
所属/部署名/役職名	○○部 ○○課 ○○
郵便番号 / 住所	000-0000 東京都千代田区神田○-○
電話	00-000-0000
E-mail	oooo@xxx.yy.zz

◆HEAT20ホームページ掲載  公開  非公開 ※当社HPへの掲載についての確認です。  
公開希望の場合はリンク先のURLを右に記載してください。 [ 例 <http://www.xxxxx.yyy/> ]

付属資料

評価計算に用いた仕様、性能値を一つだけ記載してください。よって、複数の記載、性能値の以上・以下の表記はできません。

一つの申請は、すべて屋根断熱か、すべて天井断熱のいずれかになりますので、どちらかを選択してください。

「熱貫流率計算書」、「基礎の線熱貫流率計算書」、及びその根拠となる部位断面図（平断面と縦断面）を添付してください。木熱橋の面積比率の妥当性、断面構成材料を確認するためです。

断熱工法の組合せにおいて、屋根・天井断熱一床断熱とした場合は、床下側についても記載してください。

(1) 評価計算で用いた部位の仕様

1) 屋根、天井、外壁、床等の熱貫流率と断熱工法・仕様

外張断熱の場合は、断熱層内の木熱橋の有無を記載してください。充填断熱の場合は、たる木間、母屋間、根太間、大引き間、剛床など断熱材施工法を記載してください。熱橋面積比率を特定するためです。

部位	U:熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)] Ψ:線熱貫流率 [W/(m·K)]	断熱工法*5	断熱材の仕様			根拠資料*7
			断熱材の種類*6	断熱材厚さ [mm]	断熱材の熱伝導率 [W/(m·K)]	
屋根又は天井*1 ◎ 屋根 ○ 天井	X.XX	外張断熱 (木熱橋なし)	XPS 3種 b A	100	0.028	なし
外壁	X.XX	充填断熱+付加断熱 (木熱橋あり)	GW HG32-36 +付加断熱 GW HG16-38	100 +45	0.036 +0.038	なし
床	X.XX	充填断熱(根太間+大引間)	EPS1号 2層	60 +120	0.034	なし
その他の部分	X.XX	充填断熱(剛床、根太間)	〇〇断熱材	120	0.026	〇〇試験センター 試験成績書
土間床外周部の線熱貫流率*3 ◎ 新計算法 ○ 旧計算法	0.99	吹付工法(基礎内側+土間折返し)	吹付け硬質ウレタンフォームA種 1H(基礎部・折返し(L=450)部共)	基礎部、折返し共 75	0.026	なし
基礎壁の熱貫流率*4 (新計算法の場合のみ)	X.XX	内断熱(吹付工法)	吹付け硬質ウレタンフォームA種 1H	75	0.026	なし
基礎壁の熱貫流率*4 (新計算法の場合のみ)	X.XX	内断熱(吹付工法)	吹付け硬質ウレタンフォームA種 1H	75	0.026	なし

基礎立ち上がり部の断熱部、及び土間部への折返し断熱の有無を記載してください。折返し有りの場合は、折返し長さも記載してください。

断熱材の種類と厚さも、基礎(立ち上がり部)と折返し部がわかるように記載してください。

断熱材などの性能値(熱伝導率など)に自己適合宣言書、公的試験成績書の値を用いる場合は、その旨記載するとともに、それら根拠資料を添付してください。

\*1 屋根断熱と天井断熱のいずれかにチェック◎を入れてください。  
 \*2 モデルプランにはこの部位はありませんが、実設計で想定される「外気に接する床」の仕様の記載してください。  
 \*3 基礎の線熱貫流率の算出方法は、新計算法、旧計算法のいずれであるかチェック◎を入れてください。  
 ※基礎の線熱貫流率は建築研究所の技術情報「第三章第三節 熱貫流率及び線熱貫流率」の「6.2土間床等の外周部」(新計算方法)又は、同資料の「付録D 土間床等の外周部の熱損失及び基礎壁の熱損失を一体として評価する方法」(旧計算方法)の何れかにより計算してください。  
 なお、新計算法にて求めたU<sub>A</sub>外皮平均熱貫流率は、旧計算法と比べてある程度大きくなることもありますので、この点を認識したうえでご検討ください。  
 \*4 土間床外周部の線熱貫流率を「新計算法」とした場合は記載してください。旧計算法の場合は記入不要です。  
 \*5 例：充填断熱、外張断熱、充填断熱+付加断熱など。また、付加断熱層、外張断熱層の内部に胴縁など熱橋の有無を記載してください。  
 注：断面構成、断熱層内の熱橋の有無などがわかる「断面構成図(平断面、縦断面)」を必ず提出してください。  
 \*6 断熱材の種類は、JIS品の場合はJISにおける名称(〇種〇号などの記号も)を記載してください。  
 \*7 性能値の出典が「建築研究所 技術情報」以外である場合に出典名を記載してください。その根拠資料を必ず提出してください。  
 例えば、自己適合宣言書、公的試験機関の試験成績書、メーカーカタログなどです。

2) 開口部の熱貫流率・日射熱取得率と仕様

種類	方位	U:熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]	ηd: 垂直面日射熱取得率	サッシの仕様	ガラスの仕様	根拠資料*8
窓	北	X.XX	X.XX	樹脂製(引き違い)	三層ダブルLowEガラス (アルゴンガス入り7mm)	自己適合宣言書 附属書添付
	東	X.XX	X.XX	樹脂と金属の複合製(引き違い)	二層LowEガラス (ガスなし空気層12mm)	自己適合宣言書 附属書添付
	南	X.XX	X.XX	樹脂製(引き違い)	三層ダブルLowEガラス (アルゴンガス入り7mm)	自己適合宣言書 附属書添付
	西	X.XX	X.XX	樹脂と金属の複合製(引き違い)	二層LowEガラス (ガスなし空気層12mm)	自己適合宣言書 附属書添付
ドア	玄関	X.XX	/	枠：金属製熱遮断構造、戸：金属製断熱フラッシュ(ガラスなし)		自己適合宣言書 附属書添付
	玄関以外(勝手口等)	X.XX		枠：樹脂製、戸：樹脂製、ガラス：二層LowEガラス(ガスなし空気層12mm)		自己適合宣言書 附属書添付

大部分がガラスで構成されている開きタイプ、ドアタイプの窓も可とする。なお、ドアの扱いなのでηdは評価しません。

窓、ドアの性能値(熱貫流率、日射熱取得率)に自己適合宣言書、公的試験成績書の値を用いる場合は、その旨記載するとともに、それら根拠資料を添付してください。根拠資料には、評価計算に用いた品番、性能値の箇所を赤線で囲んで明示してください。

※窓のU値が仕様・サイズにより異なる場合は、方位別にU値が最も大きいものを記載してください。ドアもU値が最も大きいものを記載してください。  
 ※窓のηd値がガラス仕様等により異なる場合は、方位別にηd値が最も小さいものを記載してください。  
 \*8 性能値の出典が「建築研究所 技術情報」又は「日本サッシ協会の技術資料」以外である場合に出典名を記載してください。その根拠資料を必ず提出してください。  
 例えば、自己適合宣言書、公的試験機関の試験成績書、メーカーカタログなどです。

3) 外皮平均熱貫流率(ルート1の場合のみ記載)

U <sub>A</sub> :外皮平均熱貫流率 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]	X.XX
---	------

※対策は出来るだけ具体的に示してください。適宜、説明図等を添付してください。

(2) 気密性の確保と防露仕様について（基本的な考え方や注意している点等について記載してください）

屋根又は天井	: 断熱材は・・・であるため、防露措置として・・・及び・・・による対策をしている。	防露性能の評価（内部結露）※1 <input checked="" type="radio"/> 仕様等の基準に適合 <input type="radio"/> 同等性評価により適合
外壁	: 断熱材は・・・であるため、防露措置として・・・及び・・・による対策をしている。	防露性能の評価（内部結露）※1 <input checked="" type="radio"/> 仕様等の基準に適合 <input type="radio"/> 同等性評価により適合
床	: 断熱材は・・・であるため、防露措置として・・・及び・・・による対策をしている。	
基礎	: 断熱材は・・・した施工を行うことで・・・対策をはかっている。	
取り合い部	: 気流止めを・・・に施工する。気密化のために・・・の措置を施すと共に、・・・を行っている。	

※1 性能表示の評価方法基準（G1は等級5、G2は等級6、G3は等級7を参照のこと）における結露の防止に関する基準のうち、仕様等による基準（防湿層、通気層の設置など）にて評価しているか、又は仕様等による基準と同等以上の有効な措置を講じられていることの評価（当認証においては、同等性評価という。）を実施しているか、いずれであるかチェックしてください。同等性評価による場合は根拠資料（特認等の評価資料又は結露計算書など）を提出してください。

防露仕様が、性能表示・評価方法基準（G1は等級5、G2は等級6、G3は等級7を参照のこと）における結露の防止に関する基準における仕様等による基準（防湿層、通気層の設置など）と異なる場合は、**防露特設などの公的な根拠資料、又は結露計算書を提出してください。**  
 通気層、防湿フィルムがない、などの場合が想定されます。

各部位、取り合い部ごとに気密化、防露対策及び関連対策について記載してください。

(3) 遮熱計画について（軒や庇の出、設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・窓にはすべて何らかの日射遮蔽措置（ロールブラインドもしくは縦ルーバー）を・・・。

評価計算には、反映していないブラインドやルーバー、その他省エネ基準で認められていない手法でも結構です。

(4) 通風計画について（開口部の設計、通風経路等、設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・通風性を確保するために、各室には二つ以上の開口部を・・・。

評価計算では評価対象外であるブラインドやルーバー、その他省エネ基準で認められていない手法でも結構です。

(5) 暖冷房計画について（設備の設置位置等設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・暖冷房の熱源はエアコンとし、全館空調システムを・・・。

評価計算とは同じ暖冷房運転条件である必要はありません。

(6) 換気計画について（換気の種類等設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・全館換気は第1種換気方式とし、換気回数0.5回/h・・・。